

# 祝 第50回「高校教研」「教育の論理を取り戻そう」 わかりやすい講演に大いに納得! ～時間の経過を忘れる討論に元気をもらった～



発行所  
和歌山県高等学校  
教職員組合  
和歌山市雑賀屋町東ノ丁50  
TEL 073-432-6355  
FAX 073-432-6357  
Eメールアドレス  
w-koukyoso@  
image.ocn.ne.jp

2023年 11・12月号  
一面 高校教研  
二面 支部長・分会長会議  
被災地を見る歩く考える行動  
実教部全国学習交流集会和歌山  
教育要求県民集会



第50回の節目となる和高校教教育研究会（高校教研）が、10月14日（土）に県民文化会館で開催されました。2019年度以降は台風接近による中止や、コロナ禍の影響下での半日開催等、不可抗力による制限を余儀なくされてきましたが、今年度は5年ぶりに一日開催による高校教研となりました。

全体会冒頭のあいさつで、「見交ししましょう」と呼びかけた石原徹執行委員長は職場の多忙化や強まる同調圧力に「触れながら、私たちの生活と権利の課題、教育文化の課題は教職員組合運動の両輪。今日一日、しっかり意

がら、積極的な討論が呼びかけられました。



上野 剛志 教文部長



和歌山大学 越野 草史 氏

「子どもの権利を充たさなければならぬ学校が子どもを追い詰めている」「その背景には、国連子どもの権利委員会から何度も警告されている日本の学校の競争主義的教育があるのではないか」という先生の指摘は、今学校で起こっているさまざまな矛盾を考え合わせるとき、まさに正鵠を射たものだと思えました。



午後からは4つの分科会に分かれて、実践・意見交換をおこないました。全県一学区制度を背景とした高校間格差が常態化した今、高校教職員の中で各学校の課題（矛盾）が共有されにくいという状況にあります。だからこそ、学校の枠を超えて、押しつけではないさまざまな実践を持ち寄って率直な討論を交わす、という場がますます大切なものとなっております。予定の時間いっぱい、あるいは大幅に超過して熱心な討論がおこなわれている様子を見て、あらためてその思いを強くしました。みなさん、次は県教研で会いましょう。

## 参加者感想より

小中高生の自殺動機と言われると、いじめ問題をあげる人も多いと思います。ただ、その多くは入試や進路に関する悩みや、学業不振が大半を占めるデータをみせていただき、特にここ数年その数が増加してきて



（向陽分会 東 嘉紀）

特に「子どもの権利条約」に対する認識が深まった。学習指導要領とあわせて、生徒指導のあり方を今一度見つめ直さなければいけないと強く感じました。教員

**訃報** 和歌山県高等学校教職員組合 執行委員長・日本高等学校教職員組合中央執行委員長等を歴任されました、片山政造氏（92歳）が11月27日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



日高教結成大会で挨拶する片山政造氏（1991年3月5日）

場や地域で議論を広げてください。

いる事実を私たち教員はしっかり受け止めなければならぬと感じました。その背景には、競争的すぎる教育があると分析されました。本校生徒も日々、小テストや課題、定期考査に模試にと追われ、点数、評定平均や偏差値のことを考え悩んでいる人も少なくないと思います。私たちが生徒のためと思っただけで、その力を使っている人がいるのか。「努力（耐える力）」は歓喜を呼びこむ。▼和歌山県立耐久高等学校硬式野球部が40年ぶりに秋季近畿大会に出場し、4強に進出する快進撃をみせた。校名の通り「耐える力」を長年継続してきた努力が実った瞬間。共に闘ってきた仲間と歓喜をわかちあったことだろう。プロ野球界でも阪神タイガースが38年ぶりに日本一に輝いた。こちらにも「耐える力」抜いた結果の歓喜。歴史の瞬間に選手はもちろぬ、ファンや関係者をふくめ、関西中が熱狂した。▼「どぶに落ちても根のある奴は、いつかは蓮の花と咲く」映画『男はつらいよ』の主題歌の歌詞にこんなフレーズが登場する。主人公の車寅次郎の手柄や生き方が伝わってくる、とっておきのフレーズである。幾度も失敗を重ねる寅さんだが、最後に、必ず素敵な花を咲かせる。心あたたまる、家族愛あふれる作品である。▼人々を歓喜の輪へ導いた耐久高校や阪神タイガース、人を魅了する車寅次郎。両者とも、耐えるに耐え、何度も困難（失敗）を乗り越えてきた。その過程には、個人の努力だけでなく、必ず「仲間の助け」が存在する。その人の生き方を共感してくれる理解してくれる存在が必要不可欠なのである。教師として「根のある奴」を育てるよう、日々奮闘していきたい。



さて、みなさんは「レジリエンス」という言葉をご存じだろうか。こ

### 高校教研 参加者感想 つづき

の数を増やすべきという意見には全面的に賛同して見ますが、そのためにどんな壁があるのかも少し知りたいたいと思いました。また、中高の特業手当の低さや、休暇の消化率についての話を聞きたいと思いました。

(和西分会 山本 銀治)

共感できる点が多かったです。同じ考えを持つ人が職場にもたくさんいます。しかし、教育現場に反映されないのは、声を上げるのが不十分なのかと思います。「児童の最善の利益」を考えることができる環境をつくるために、政治についても関心を高めなければなりません。 (現在生徒が使っている一人一台端末がBYOD(私物のPCやタブレットを使うこと)に変わってしまうことについて、家庭の経済状況が生徒の学びに影響するのはと心配です。

(粉河分会 雛子 芙美代)

評価についての話になったとき、三観点の評価は教員の負担でもあるが、それによって必要となった多数の課題によって生徒の負担も増えているという話になり、午前の講演の話も踏まえて、教員・生徒ともにますます余裕のない環境になっ

てきているなど感じました。南部高校のデュアルシステムの取り組みは、担当される先生方のご苦労ははかれません。本当に素晴らしい取り組みだと思いました。勉強になりました。

(那賀分会 宮本佳歩)

戸瀬先生のお話し。串本古座高校の学科変更、はじめは全面的に支援するような話だったのに、ここに来て県がいろいろ思いつきでやってきたことが露呈してきてがっかりだった。今後、も定数割れの学校に対して様々な負担が強いられるかも心配だった。松下先生のお話し。日本人収容所の問題など、あらためて平和について考えました。

(南紀分会 森 登茂広)

## 被災地への思いを変えた



### 「被災地をみる・歩く・考える」行動に参加して

と2日目の現

11月3、4日、全教「2023年被災地を見る・歩く・考える」行動に参加

地フィールドワークを前にして確認した。特に県教組、坂井聡さんの「ALPS処理水の海洋放出について」



2日目、まず双葉郡の「宝鏡寺」へ行った。この第30世住職、早川篤雄氏

(昨年末に83歳で死去)は原発建設が計画された当時から一貫して反対運動の中心となり、原発避難者訴訟の原告団長も務めた方だが、「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言の灯」を

この行動の最後に被災者支援の一環として「エゴマ・キャンドル」開発にも参加

この行動の最後に被災者支援の一環として「エゴマ・キャンドル」開発にも参加



給付制奨学金制度拡充について発言する和大OG平見さん。現役和大生の手紙を代読しながら訴えました。



「給付制奨学金制度の拡充」などの要望を県民に訴えよう！

## 第3回 支部長・分会長会議 「今職場で起きていること」が次々と... 全教職員署名のとりくみを大きく広げ、要求前進を勝ちとろう!



「全教職員一人一筆署名」のとりくみ方についても議論

を広げていくことが執行部から呼びかけられ、散会となりました。

全県秋闘オルグを終え、確定交渉のたたかいを目前に控えた10月12日(木)、2023年度第3回支部長・分会長会議が高校会館で開催されました。中東はパレスチナをめぐる情勢が緊迫しており、会議の冒頭、石原執行委員長はこの状況を

秋は、確定交渉・教研等、和高校のたたかいが見える季節。さまざまな機会をとらえて職場からのたたかいを広げていくことが執行部から呼びかけられ、散会となりました。



## 「つれもて学ぶ」学習交流会!



全日本教職員組合実習教員部は、10月14日15日に「集いあい・語りあい学びあう」をテーマに、「第31回全国学習交流会やっばね!」が和歌山市(県民文化会館)で開催され、全国から19組織54人が和歌山に集いました。和歌山高教組の実習教員部も集会運営に尽力しました。

全教実習教員部  
全国学習交流会  
in 和歌山